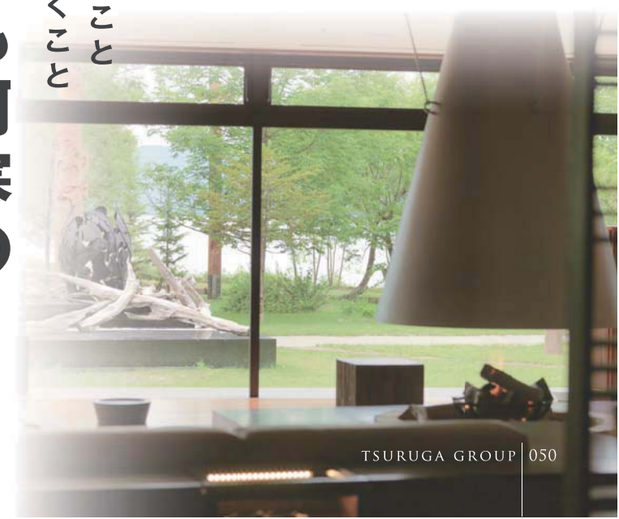
阿寒湖温泉
今昔
座談会

大切に守り続けること 新しく変わっていくこと
これからも阿寒の湖と森とともに

清らかな水と豊かな森。
神秘的な湖の畔りの街には
温かな人々との出会いがありました。
四季折々の阿寒の地や自然、
アイヌ文化など、この特別な場所の
今と昔、そしてこれからについて、
造詣の深いお三方に
語り合っていただきました



司会　鶴雅グループは永遠のふるさと阿寒の地と共に60周年を迎えたと言っても過言ではありません。世界的な価値を伝える地域の皆様の取り組みとその軌跡について今日、お集まりいただきました皆様にお話を伺っていきたいと思います。

　最初に、ふるさとへの思い入れがありましたらお聞かせください。

山浦　私のふるさとですから大好きですよ。でも冬は通行止めになることが多く、町としては寂しかったですよ。

長井　阿寒湖は1班から6班まであって、この地域は6班でした。民家も10軒くらいしかありませんでしたね。昭和31年頃ですが、やはり寂しいところという記憶があります。

小林　私は昭和30年生まれで大西社長と同級生です。町のイメージもさることながら、幼いころ大西家に遊びに行くと、大西社長のお父さんがどんと座って焼酎やウイスキーを飲んでいる、というのが今でも印象に残っていますよ。（笑）

司会　1934年、阿寒湖が北海道初の国立公園になったと伺っています。阿寒といえばマリモのイメージが強いのですが、観光との結びつきはいかがでしたか？

山浦　昔はお客さんが持って帰っていたこともあったようですね。

　森林伐採や電源開発などの影響でマリモが減っていましたし、阿寒湖に生育するマリモは美しい球体を作ることもあって、1952年に特別天然記念物に指定されています。

小林　やはり阿寒湖にとってマリモは貴重な物ですから盗採から守るためにチュウルイ島に展示観察センターを設けたり、保護活動も積極的に行われてきました。

自然だけではなく先人たちの文化を伝えることが大切

司会　その後、時代が変化する中、阿寒湖の観光のスタイルも変わってきたと思うのですが。

長井　昔は横断道路が開通し、六月から本格的な観光シーズンがスタートしました。

小林　湖の氷割りも観光シーズンに間に合うように小さな船で割ってましたね。

山浦　長い間、シーズン中は黙ってもお客様がきてくれました。1998年頃のピーク時には、日帰りのお客様も含めて193万人。でも、いつまでその数字が保たれるのか、自然だけではお客様は来てくれないのではないかと。

　2000年の航空法改正から一気に流れが変わってきました。大西社長は「このままだと阿寒湖温泉はパンフレットの表紙に載らなくなるかもしれない。なんとかしなければ…」とよく話していました。

長井　人が集まればやはり商売は上向きになります。私はこの状況がこの先も続くものだと思ってました。続くわけないですよね。

山浦　大西社長は阿寒の魅力を広めるひとつは、アイヌ文化を伝えること。絶対、まちづくりの核になっていくと熱く語っていたのを思い出します。

小林　私も大西社長とコタンへ行って、皆さんに「人が集える町にしたい、一緒に取り組んでいただきたい」と説明しました。

　それが今まとまり、同じ方向を向いて進んでいるのではないでしょうか。

長井　アイヌ文化を取り入れて

NPO法人阿寒観光協会
まちづくり推進機構専務理事
株式会社 阿寒観光汽船
代表取締役社長
小林 一之 氏

阿寒湖温泉連合町内会 会長
有限会社 長井商店
代表取締役社長
長井 清 氏

鶴雅グループ
取締役会長
山浦 祥治

世界に誇れる観光資源に誇りをもって

いこうという試みは先代も力をそそいでいましたね。

山浦　鶴雅グループ各館にはアイヌ文様をはじめ、藤戸先生、瀧口先生の木彫りの彫刻がお客様をお出迎えしています。

　自然の醍醐味はもちろんですが、伝えるべき文化を知ってもらう事が私共の大きな役割だと思っています。

歩いて楽しめる温泉街をめざして

山浦　2000年の航空法改正によって阿寒湖温泉、道東の観光地は打撃を受けました。でも、バブル経済が終わった後も、阿寒湖温泉は微増ですがお客様は増え続けていました。しかし、何か仕掛けなければお客様が減っていく事はわかっていました。

小林　航空法改正の年、大西社長をはじめ危機感を覚えた地域の人々によって阿寒湖温泉活性化戦略会議がスタートし、2003年「阿寒湖温泉再プラン2010」が策定されました。阿寒湖温泉をみんなで考え、実行するプランなわけです。

長井　お客様にホテルから街に出て来ていただくこと。。集客の目玉になるイベントを企画するのも大事でしたね。

山浦　氷上フェスティバルの花火が終わって、次にたいまつを持ってコタンまで歩く、このイベントを2～3日実行してたんですが、大西社長は毎日やらなければだめと言いだしました。

小林　強い熱意でその後も続いてますね。

長井　海外からのお客様が増えたり、ツアーでいらっしゃる方より個人のお客様が多くいらっしゃることにより阿寒湖自体もお迎えする体制を変えなければなりませんでしたから。

　たいまつ行進、イオマンテの火まつり、そして日本初のアイヌシアター「イコロ」によって文化と芸術を感じていただくことができるようになったと思います。

山浦　先頭に立って行動してくれる人がいたから数々のイベントも継続できたし、阿寒湖温泉は走り続ける事ができるんではないでしょうか。

　2014年10月以降宿泊人数が前年比より増えているんです。

不景気な時ほどチャンスがあるはず
長井 清氏

小林　はじめから100%など絶対にない事ですが、でも、やってみなければわからない。だからこそそれを地域の皆に伝えようと、必死になって自分が生まれた地、大好きな阿寒のため、私達を引っ張ってくれているんだと思います。それが大西社長のスタイル。そういえば、彼の小学校の時のニックネーム「社長」だったんですよ(笑)

簡単に目標を捨てない執着心と継続力を

司会　最後に、これから阿寒湖温泉が目指すまちづくりについてお聞かせください。

小林　一言で言えば「魅力ある阿寒」なのだと思います。

山浦　「魅力ある阿寒」であれば、これから滞在型観光として、海外のお客様、一人旅のお客様など様々な旅を考えている方々にもつとアピールする事ができます。

長井　地元の人間同士はもちろん、近隣の地域とも連携をとりながら、しつかりと進めていかなければなりませんね。

　大西社長のバイタリティーに負けないよう私たちも止まってはいけないように思いますよ。

小林　宿泊客の減少に伴って、阿寒湖畔の定住人口も減少しています。長井さんがおっしゃったようにここで止まってはいけません。

　阿寒湖畔には世界に誇れる観光資源があります。「阿寒湖温泉再生プラン2010」が策定され、3年毎の評価、見直しを得て10年が経過し、さらに55のプロジェクトからなる「阿寒湖温泉、創生計画2020」によって新たな10年間を踏み出します。

山浦　「再生プラン2010」は共通のビジョン、目標があってまちづくりを進めてきました。これは「創生計画2020」に引き継がれていかなければなりません。

　地域一丸となって阿寒の再生をめざしていきます。そして、大西社長には、リーダーシップをとっていただき、私達のふるさと阿寒の魅力を地域の皆さんと共に国内外に問わず広めていきたいと思います。

継続することはいつか大切な力となる
山浦 祥治

皆で盛り上げなければ街は発展しない
小林 一之氏

司会　これからの阿寒湖温泉のさらなる発展に期待できるお話を聞くことができました。本日は長時間ありがとうございました。

一同　ありがとうございました。